



ら しん ばん
羅 針 盤

2023年1月17日 第34号

魚住東中学校 校長室から

竹

校長 赤松 弘一



竹は支えもなくただ1本で高く伸びて立っていますが、強い風が吹いても倒れません。もし棒を高く立てるなら、相当深く地面に差し込まないと倒れてしまいます。ジャーナリストで知の巨人といわれた、故・立花隆さんは『竹は1本1本生えていて個別の存在に見えるが、地下では全て地下茎でつながっている。竹林の数百本の竹は、もとは一本の竹であり、その竹林の全てで1つの命である』と語られていました。倒れない竹の強さはそこにあるようです。

人間はどうでしょうか。みんな個々に生きていますが、その両親、祖父母と辿っていけば、必ず他の人と祖先が重なります。そして最後はアフリカで生まれたホモサピエンスにたどり着きます。人種や民族も関係ありません。竹と同じように人もすべてが兄弟姉妹であり、もとは1つの命から生まれています。人は過去から未来へと命をつなぎながら生まれ変わり存在しています。国境や資源や宗教を巡って戦争をするのは誤りです。誰かに助けられながら、一方で誰かを支え、互いに依存しながら生きていくのが人間です。

竹は数十年に一度一斉に花が咲いて種を残し、その後は竹林の全てが枯死します。人類は今、地球温暖化や戦争など様々な矛盾を抱えながら繁栄していますが、この後一斉に地上から姿を消すようなことが無いように、広い視野と寛容な心、深い知恵で、平和なそして持続可能な社会を継承せねばなりません。



今日は1月17日、阪神淡路大震災から28年になります。私は震災があった時、芦屋の中学校に勤務していました。芦屋市でも400人以上の人が亡くなり、学校も2月半ばまで休校になりました。六甲山が過去の度重なる大地震で隆起してできたことを知っていながら、その地震が自分に降りかかることは想像していませんでした。倒壊した高速道路や建物、折れた電柱を避けながら、悪夢を見ているような気持ちで学校へ行きました。

地震など大規模な災害があった時には、消防などの救助は手が足りず、道路も塞がっているのを待っていてもだめです。そこにいる人が協力して人を救助し、持っている食料や水を分かち合っていかなければなりません。一人ではどうにもできないのです。あの震災の時はまさにそうでした。様々なものが失われた街で互いを思いやって立ち上がっていく人間の強さを見ました。

命を失っては立ち上がれません。まずは命を守るための備えをすること、その後は竹林のように人同士がしっかり手をつないでいくことが大切です。日頃から家族や近隣の方と「地震の時の行動」について話し合っておくことが求められます。

保護者の皆様へ 「卒業式について」

第41回卒業式は 3月15日(水)午前10時 開式の予定です。

新型コロナの感染状況が昨年以上に厳しいため、明石市教育委員会からの通達により、今年度もご来賓の列席はありません。保護者の方は各家庭2名までとさせていただきます。在校生は生徒会の生徒が代表として参加します。